

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970500795
法人名	有限会社 夢野家
事業所名	グループホーム 夢野家Ⅱ
所在地	〒634-0835 奈良県橿原市東坊城町197番3 (電話) 0744-28-2929

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月1日	評価確定日	平成21年9月4日

## 【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造、一部鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20000円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 2000 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低 75 歳	最高 86 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなみクリニック・中井記念病院・吉田歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社夢野家が運営する当該ホームは、坊城駅近くの純日本家屋で、玄関に入るとワニのベンチに出迎えられ、障子やふすまで仕切られた居室を中心に廊下で一回り出来るようになっていきます。手入れの行き届いた広い庭には木々が生い茂り、ウッドデッキでバーベキューやそうめん流しなどをするなど、田舎の家に帰ってきたような雰囲気で懐かしく何処にいても落ち着く雰囲気があります。職員は、「朝一番笑顔で」を合言葉に利用者と自然体で接し、自由な暮らしを支援しています。利用者の表情も豊かで明るく、会話も多くあり穏やかな日々を過ごされています。また重度化や終末期になっても家族と一緒にホームで看取れる様に体制を整えるなど、常に前向きに取り組まれているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での課題については、避難訓練をホーム独自で行いました。消防団への呼びかけや運営推進会議で地域の方にも協力をお願いしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員や管理者の意見も取り入れながら主任がまとめ作成し取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や民生児童委員、市議員、市職員、地域包括支援センター職員、スーパー店長などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。その時の状況やテーマに合わせ参加してもらっています。情報や意見がたくさんあり有意義な場となっています。また、参加者の意見から、堅苦しくならないよう「茶話会」と位置づけ、意見の言いやすい運営推進会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や定期的な電話、「ミニ旅行」への参加があったときには、話しやすい雰囲気です。意見や要望があれば職員で話し合い、家族に結果報告をしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しています。管理者が地域住民で広報や回覧版などを見ながら、夏祭りや区民祭りなどに参加しています。地域のボランティアで庭の手入れや手芸教室が月に2回の開催、紙芝居などの来訪があります。また、近隣の方から、花や野菜を頂き交流しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そのままのあなたでいい」「老いる自由を楽しみましょう」をホーム独自の理念としています。利用者の尊厳と地域に根差した暮らしを大切に思い、管理者が設立時にいろいろな本を参考に考え作成されました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は新任職員入職時やミーティング時に理念について説明し、日々の振り返りや確認を行っています。また誰もが見る事ができるようにホーム内に掲示されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。管理者が地域の住民でもあり、回覧板や広報から情報を得て、夏祭りや区民祭りなどに参加しています。近隣の方から花や野菜を頂いたり、子供がホーム前で遊び、立ち寄ってくれます。また庭の手入れや手芸教室、紙芝居等ボランティアの来訪があり交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、管理者や職員の意見も取り入れながら主任がまとめました。前回の課題項目である避難訓練をホームで行い、運営推進会議を2ヶ月毎に定着させるなど、出来ることから改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、その時の状況やテーマに合わせ運営推進会議を開催しています。会議には利用者、家族、民生児童委員、市議員、市職員、地域包括支援センター職員、スーパー店長などに参加してもらい、参加者からの情報や意見を頂き有意義な場となっています。会議としての位置づけが堅苦しいとの意見から「茶話会」とし、意見の言いやすいよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員の出席があり情報や意見をもらい、介護相談員を受け入れ、年度末に市の職員・介護相談員・管理者との三者面談に参加するなど、何でも相談でき話しやすい関係が構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪が多くありその都度、ホームでの様子を報告しています。写真をホームに掲示してもらい、個々のアルバムとして保管しています。毎月の請求書と一緒にホームでの様子を手書きのコメントに添えFAXで送付し、電話でも定期的に報告しています。預かり金については来訪時に収支報告し、確認印やサインをもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話での報告の際に直接意見、要望を聞くようにしています。また外部の苦情機関を書面に記し、意見を言いやすい環境を整えています。出された意見は職員でその対応を話し合い、結果を家族に報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や主任は、職員が働きやすい環境づくりに努めています。個々の状況に応じてシフトを配慮したり職員から話を聞く機会を持ち、ゆとりを持って仕事ができるようにしています。また、新任職員には、現任職員に付いて業務を行いながら少しずつ馴染めるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市等からの研修情報を得て、希望者や該当する職員がより多く参加できるよう配慮しています。参加後は報告書、資料を残しホーム会議で伝達研修しています。また、毎月その時に応じたテーマを決め、事例検討会や勉強会を開催しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは行事を合同で行い利用者も含め交流しています。また市内のグループホームは相互見学を行ったり、研修先で知り合った職員同士が、その後も交流を続け意見交換する等、質の向上を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来られた際は、レクレーションに参加してもらったりおやつと一緒に食べてもらい、同じ時間を一緒に過ごす配慮を心がけています。体験入居も可能で、期間は特に決めておらず「いつでも帰れる」との思いから入居がスムーズに至った利用者もいます。入居後も家族の協力を得ながら、徐々に馴染んでもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	礼儀作法や言葉使いなど利用者から多くの事を教えてもらっており、言葉使いが悪いと叱られることもあります。職員は利用者と一緒に過ごす時間を大切に、共に支え合う関係づくりに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族に基本情報を書いてもらっています。センター方式の一部を利用したアセスメントシートを使い、家族から聞いたり、利用者との会話や表情から、希望や意向の把握に努めています。職員や夜勤者の意見は引き継ぎ書に記載して情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、アセスメントや引き継ぎ書をもとに計画作成担当者を中心に職員で話し合い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや3か月ごとにカンファレンスを開催し評価を行い見直しをしています。介護計画は6か月に1回更新しています。また状態に変化があった時には随時見直ししており、介護記録を時間毎に細かく記載することで、日々の見直しに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方から家族の来訪時には、食事や布団を用意し泊まってもらえるようにしています。受診には職員が同行し家族に受診結果を報告しています。また買い物や喫茶店等、家族との外出時にはタクシーの手配や送迎をすることもあり、1人ひとりに合わせた外出支援を心がけています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に家族と相談し、かかりつけ医を決めています。職員に看護師がいる事で、日々健康状態を把握でき、定期的に連携医に職員が同行し通院しています。緊急時や看取りの状態になったときには協力医療機関にスムーズに診てもらえ、連携が取れた体制になっています。また、必要に応じて訪問歯科に来てもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、「看取りまでします」と家族に説明しています。今までも看取の経験があり、状況に応じて家族の意向を再確認しています。また、職員とも方針を共有しており、ターミナルについて看護師より勉強会を行なうなど、スキルアップをも図っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者からも注意されることもあり、言葉使いや声掛けには十分に気をつけています。毎月のミーティングで話し合い、職員同士でも注意し合っています。記録物は、事務所の容易に目の触れない棚に適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはありますが、起床から睡眠まで自由な暮らしを支援しています。早朝からの拭き掃除や神社へのお参りなど今までの習慣やひとり一人のリズム、ペースを大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が利用者の意見や希望を聞きながら献立を決めています。準備から味付け、盛り付け、後片付けまで職員と一緒にしています。また職員も同じテーブルに着き、同じものを頂きながら食事を楽しみ、自然な流れで食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は14～17時となっていますが、希望があれば午前中や毎日の入浴、シャワー浴での対応も可能です。洗髪だけ洗面所で行う利用者もいます。浴室が2か所あり、用途に応じて使用しています。入浴拒否がみられる利用者にも3日に一度は入ってもらえるように、職員の声掛けやタイミングなど工夫しながら入浴を支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	拭き掃除や草ひき、食事の準備など今までしてきた事を役割としています。百人一首、スーパーでの買い物、折り紙、カラオケ、映画を見に行くなど気晴らしや楽しみの場を提供しています。ウッドデッキではバーベキューやそうめん流し行い利用者も職員も楽しみな行事となっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣のスーパーや神社などへ行くのが日課となっています。ホームの庭に出て四季を感じたり、誕生日には利用者の希望を聞き外出に出かけたり、季節ごとにチューリップやバラ、あじさい、菊等の花見に行っています。また、毎年恒例の家族も一緒に「ミニ旅行」を今年も実現されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずセンサーチャイムにて人の出入りを把握しています。見守りを怠らず居場所を確認しながら、利用者が出かけた様子を感じたら、一緒に出かけています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春にホーム独自で昼間を想定して避難訓練を開催しました。地域の防災訓練に参加したり運営推進会議で話題にして協力を呼びかけています。また、消防団にも協力の働きかけをしています。	○	一度は消防署に指導をお願いし、夜間をも想定して避難訓練したり、地域の方にも参加を呼びかけ、心肺蘇生やAEDの研修を一緒にされてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は毎回記録しています。野菜を中心に旬のものを頂き、見た目も大切にしています。利用者の咀嚼、嚥下状況に応じた食事を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは居室を中心に廊下で一回り出来るようになっています。廊下には行事の写真や絵が飾られており、玄関にはワニのベンチが置かれ、いろいろな所に椅子やソファを置き、自由に寛げるようになっています。手入れされた広い庭にはウッドデッキがあり、冬場にはサンルームでは昼食やお茶を楽しむ等、ゆっくりと過ごせる空間があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はほとんどが和室で広く夫婦で入れる部屋やフローリングの部屋もあります。部屋は固定ではなく、状態に応じて移動していただくこともあり、家族にも了承を得ています。ベッドとタンスはホームが用意し、テレビ、鏡台、椅子、写真など今まで使っていたものを持参されています。布団を用意して家族も泊まれる様になっています。		